下城　正さんを悼んで

わが群馬県埋蔵文化財調査事業団にあしかけ21年の長きにわたって在籍し、埋蔵文化財の保護のために尽力されてきた下城　正さんが、平成15年５月、病を得て52歳の若さで幽界に旅立たれた。立正大学の坂誥秀一教授のもとで考古学を学び、昭和48年に群馬県教育委員会文化財保護課に勤務してからの31年間を、まさに埋蔵文化財保護行政一筋に捧げた一生だった。

下城さんが携わった発掘調査歴には、群馬県ならず全国レベルでも著名な錚々たる遺跡名が並ぶ。なかでも、古墳時代の豪族居館として学史に残る発見となった三ツ寺遺跡の調査は、下城さんの発掘人生においても最大のハイライトであったろう。そのほか、専門である縄文時代の敷石住居跡が発見された月夜野町梨の木平遺跡なども、若き日の下城さんが大いに情熱を注いで取り組むことになった遺跡のひとつだ。どんなときでも悠揚迫らざる態度で、着々と発掘の成果をあげていくその姿は、私たち同僚や後輩にとってどれほど頼もしい存在だったか判らない。一見「赤鬼」とでも形容したいような強面で、豪放磊落な容姿に似合わず、実は細やかな神経も持ち合わせていて、発掘計画の緻密さなどには定評があった。数年遅れて同じ釜の飯を食すことになった後輩たちからは信頼の置ける良き兄貴として慕われ、また職場を離れても大好きだった釣りやお酒を通じて、常に仲間達の中心にいた。そんな下城さんだったから、周りにいる誰からも慕われていたというのはけっして言い過ぎではないだろう。埋蔵文化財行政が岐路に立たされている現在、当事業団の将来を担う中心人物として、これからが大いに活躍されるはずであっただけに、下城さんのあまりにも早すぎる逝去は、残された私たちにとって大きな悲しみ以上の衝撃を与えたことは確かだ。

当事業団の創立25周年の記念刊行物として企画されたこの論文集に、20年以上も共に働いた仲間として、下城さんにはぜひ執筆陣のひとりとして加わって頂きたかった。残念ながら既に闘病生活に入られていたため、その意を受けて頂くことがかなわず、今となってはそのことが悔やまれる。せめてここに、長年に亘って埋蔵文化財保護のために尽力された下城さんの主な業績を掲げ、哀悼の意を表すことにしたい。（創立25周年記念論文集編集委員一同）

下城　正　年譜

発掘を指導する下城さん（左端）

1951年１月14日	群馬県伊勢崎市生まれ
1969年	県立伊勢崎東高等学校卒業
	立正大学文学部史学科入学
1970年	権現山古墳群、下触遺跡、若田原遺跡調査
1973年	立正大学文学部史学科卒業
	群馬県教育委員会事務局文化財保護課勤務
	大平台遺跡、十二原遺跡、大原遺跡の調査
1974年	**梨の木平遺跡**（縄文時代中期敷石住居）の調査
1979年	**下佐野Ⅰ遺跡、深沢遺跡**の調査
1980年	群馬県埋蔵文化財調査センター勤務、
	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団派遣**三ッ寺Ⅰ遺跡**（古墳時代豪族居館）の調査（1983年まで続く）
1984年	これまで関わった遺跡の整理に従事（1989年まで）
1991年	**元総社寺田、東平井土井下遺跡など**の調査
1992年	**上戸塚正上寺、新保田中村前遺跡**調査
1999年	県教育委員会文化財保護課埋蔵文化財第２係勤務
2002年	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究第４課長
	八ッ場ダム調査事務所調査研究課長
2003年	東毛調査事務所調査研究第２課長
2003年５月18日	永眠　享年52歳